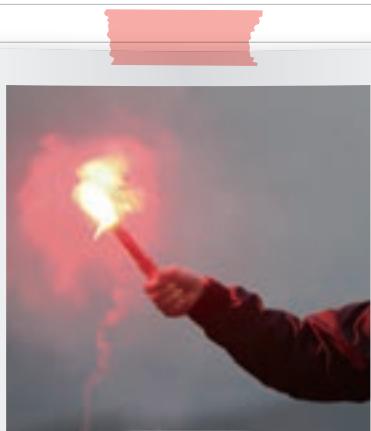




Corporate Social Responsibility
CSRレポート 2014



カーリットホールディングス株式会社

経営理念

信頼と限りなき挑戦

会社概要

商 号	カーリットホールディングス株式会社
本 社	〒104-0031 東京都中央区京橋一丁目17番10号
資 本 金	1,204百万円
売 上 高	39,834百万円(2013年度連結)
従 業 員	910名(連結)
国 内 法 人	日本カーリット株式会社 ジェーシーポトリング株式会社 株式会社シリコンテクノロジー 日本研削砥粒株式会社 カーリット産業株式会社 第一薬品興業株式会社 富士商事株式会社 並田機工株式会社 株式会社総合設計 東洋発條工業株式会社 株式会社西山フィルター
海外現地法人	佳里多(上海)貿易有限公司 上海騰發國際貿易有限公司 昆山唐發精密部品有限公司 Carlit Singapore Pte.,Ltd.

■ 編集方針

当社グループは、2009年にレスポンシブル・ケア報告を主体とした「環境報告書」を発行したことを皮切りに、2011年・2012年には、社会への取り組みやステークホルダー別の活動状況をまとめた「環境・社会報告書」、2013年にはカーリットホールディングス設立に伴い「CSRレポート」を発行してまいりました。今回発行いたしました「CSRレポート2014」は、2014年に新たに発足しました「グループCSR委員会」において、CSR活動の「8つの基本方針」に基づき内容を整理し、取り組みや実績などを報告しています。また、新たに財務情報や第三者意見を盛り込むなど、様々な側面から当社グループを紹介する報告書となるよう制作いたしました。

■ 対象組織

原則としてカーリットグループ全体

■ 対象期間

2013年4月1日～2014年3月31日
(一部、対象期間外の内容も含まれています)

INDEX

経営理念／会社概要	01
トップメッセージ	02
CSR推進体制	03
カーリットグループの製品	05
モノづくりを通じたCSR	07
環境保全	09
品質保証	16
安全対策	17
リスクマネジメント	19
情報開示	20
従業員教育・福利厚生	21
地域貢献	23
財務情報	25
第三者意見	26

TOP MESSAGE

事業活動を通じて社会に貢献し、人々に必要とされる製品・サービスを提供してまいります。

当社グループは2013年10月にカーリットホールディングスを設立、純粋持株会社体制へと移行しました。今後、カーリットホールディングスがグループ全体を統括していくにあたり、グループCSR委員会を設立しました。各グループ会社にCSR担当者を設置し、グループCSR委員会・事務局、CSR担当者と連携をとりながら、CSR活動を推進してまいります。

グループCSR委員会発足とともに、当社グループのCSR活動指針を定めた「グループCSR基本方針」を定めました。今後カーリットグループが取り組むべきCSR活動を8つの基本方針に整理しました。基本方針ごとに活動指針を定め、グループ各社でのCSR活動をより具体的に取り組めるようにいたしました。

当社グループは、事業活動を通じたCSRに取り組んでいきたいと考えています。社会のニーズをいち早く察知し、人々に必要とされる製品・サービスを提供してまいります。発炎筒など人々の安全を守る製品、宇宙関連事業、清涼飲料水など、幅広い分野で社会に貢献しています。

また、2013年度は、新たに上下水道や排水処理施設などの設計・監理や、自動車・建設機械向けの部品などの新事業分野への進出、さらには、リチウムイオン二次電池の性能試験といったサービスを開始いたしました。今後、事業会社間のシナジーを発揮させると同時に、持株会社内に設置したR&Dセンターによるグループ横断的な研究開発活動により、人々に求められる新製品・新サービスの創出に努めてまいります。

我々の挑戦にゴールはありません。人々がより良い暮らしを送るため、当社グループとして取り組めることをいつまでも挑戦し続けます。事業活動を通じた社会貢献を行っていくなかで、ステークホルダーの皆さまとも良好な関係を築いてまいります。



代表取締役会長 兼 社長 出口 和男

CSR推進体制

■ グループCSR基本方針

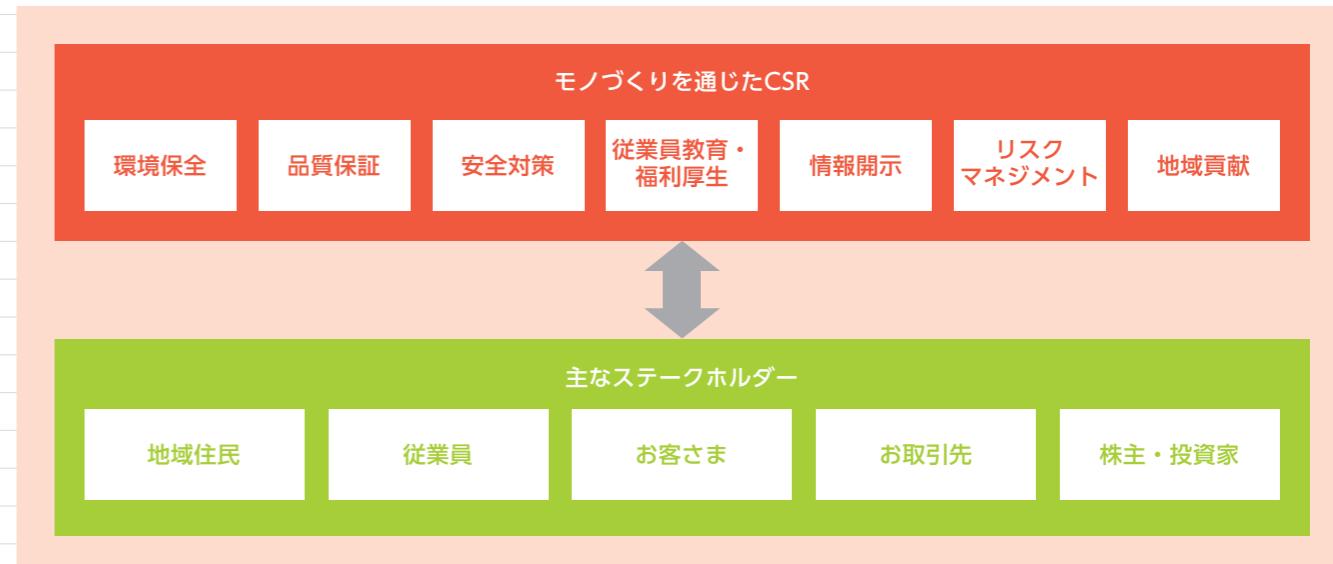
当社グループは下記の8つの基本方針に基づき、CSR活動を推進してまいります。

項目	基本方針	活動指針	2013年度実績	該当ページ
モノづくりを通じたCSR	企業市民として、モノづくりを通じて社会的課題の解決に積極的に取り組み、人々の豊かな生活に貢献していきます。	●人々の生活を豊かにする製品の研究開発に取り組み、製品化を目指します。 ●日本の産業発展に寄与するために、産業用部材の製造・販売に努めます。 ●環境配慮製品および人々の安全に貢献するモノづくりを行います。	●電池試験事業の開始 ●ばね・座金等の金属加工事業に進出 ●産業用部材事業で新規事業品	P7,8
環境保全	製品の開発から廃棄までの全てのライフサイクルにおいて自然環境を尊重し、環境負荷の少ないモノづくりを目指し、地球環境の保全と維持に配慮した事業活動を継続的に行います。	●全ての企業活動において環境負荷を低減するために省資源・省エネルギー・廃棄物削減・環境リスク低減対策等のパフォーマンスを推進します。 ●環境マネジメントシステムに基づいて環境保全を実施し、継続的改善と予防を図ります。 ●環境関連法規制および当社グループが同意するその他の要求事項を遵守します。 ●環境目的・目標を明確にして、活動状況に応じて定期的に見なおすを行います。 ●責任の所在を明確にするため最適な環境管理体制を確立し、維持します。 ●グループ全従業員、当社グループのために働く人全てに、環境方針を周知徹底いたします。	●レスポンシブル・ケア活動の推進 ●ソーラー発電所の設置 ●水力発電所の継続使用 ●発炎筒広域回収 ●カーボンオフセットへの協賛	P9~15
品質保証	お客様の信頼および満足のもとに決められた品質を実現するために、一人一人がこれに貢与していることを認識し、各役割を理解し、積極的な品質向上活動を継続します。	●当社グループが提供する製品品質が、法令遵守に基づきお客様の信頼と満足を得られることが、価格・納期、サービス等の全ての前提であることを品質活動に與する全ての社員が認識し、実践します。 ●品質マネジメントシステムに基づいてお客様が満足する品質を実現するために、PDCAサイクルの中で有効性を評価し、継続的に改善します。 ●各グループ会社は品質目標を定め進捗確認を実施します。	●5S活動の見直し	P16
安全対策	無事故、無災害を目指し、従業員と地域社会の安全を確保します。また、工程、物質においてリスクを洗出し、従業員、物流関係者、お客様等関係する人々の安全を図ります。	●リスクアセスメント・作業前の危険予知で、職場や作業に潜むリスクを洗出し、安全対策・漏洩対策を行います。 ●防災訓練を通じて、防災意識を高めます。	●休業災害0達成 ●工場防災訓練の実施 ●物流安全講習会の実施	P17,18
リスクマネジメント	リスクマネジメントを推進し、事業活動に伴うリスクに対する対策や予防に努めます。	●グループ全体のコーポレートガバナンス体制、内部統制システム、コンプライアンス推進体制を確立・維持します。 ●グループ全体のBCPを確立し、災害等の非常時に被害を最小限に食い止める体制を整えます。	●社外取締役1名、社外監査役2名の維持 ●事業継続計画策定	P19
情報開示	お客様、株主、従業員など、あらゆるステークホルダーに対し、適時・正確かつ公正なグループの企業情報報を提供します。	●適切な開示、タイムリーな情報開示を心がけます。 ●ホームページにおいて、企業情報、事業概要、IR情報、CSR情報の充実を図ります。 ●IR活動を通して株主・投資家との積極的なコミュニケーションを図ります。 ●会社案内、CSR報告書の内容を充実させます。	●CSRレポート2013発行 ●会社案内改訂 ●決算説明会開催(年2回)	P20
従業員教育・福利厚生	人材を「人財」と捉え、従業員が働きやすい環境を整えるとともに、従業員の育成に努めます。	●採用活動を積極的に行います。 ●職種別、職位別研修を実施します。 ●従業員の衛生管理を徹底します。 ●女性従業員の有効な活用を図り、管理職等への登用を図ります。 ●障がい者雇用率の達成に向けて取り組んでいきます。 ●休暇制度や補助金制度などの福利厚生の充実に努めます。 ●「心の病」を未然に防ぐため、メンタルヘルスケアに取り組みます。	●グループ全体に跨る職位別研修 ●コンプライアンス研修の実施 ●メンタルヘルス診断実施	P21,22
地域貢献	地域社会の一員として、地域に密着した社会貢献を行います。	●工場見学を積極的に実施し、「開かれた工場」を目指します。 ●清掃活動に参加し、地域の美化に貢献します。 ●寄付等を通じて、地域に必要なモノ・サービスを提供します。	●工場見学会の実施 ●献血活動の実施 ●工場周辺の清掃活動の実施 ●図書館への寄付	P23,24

■ ステークホルダーの皆さまとともに

当社グループは、ステークホルダーの皆さまと良好な関係を築いていくことが、CSR活動の目的であり、持続可能性を確立するための手段であると認識しております。ステークホルダーであるお客さま、お取引先、株主・投資家、地域住民、従業員を、CSR基本方針ごとに主なステークホルダーとして定め、活動指針に従ってCSR活動を実践していくことで、ステークホルダーとのコミュニケーションを図ってまいります。

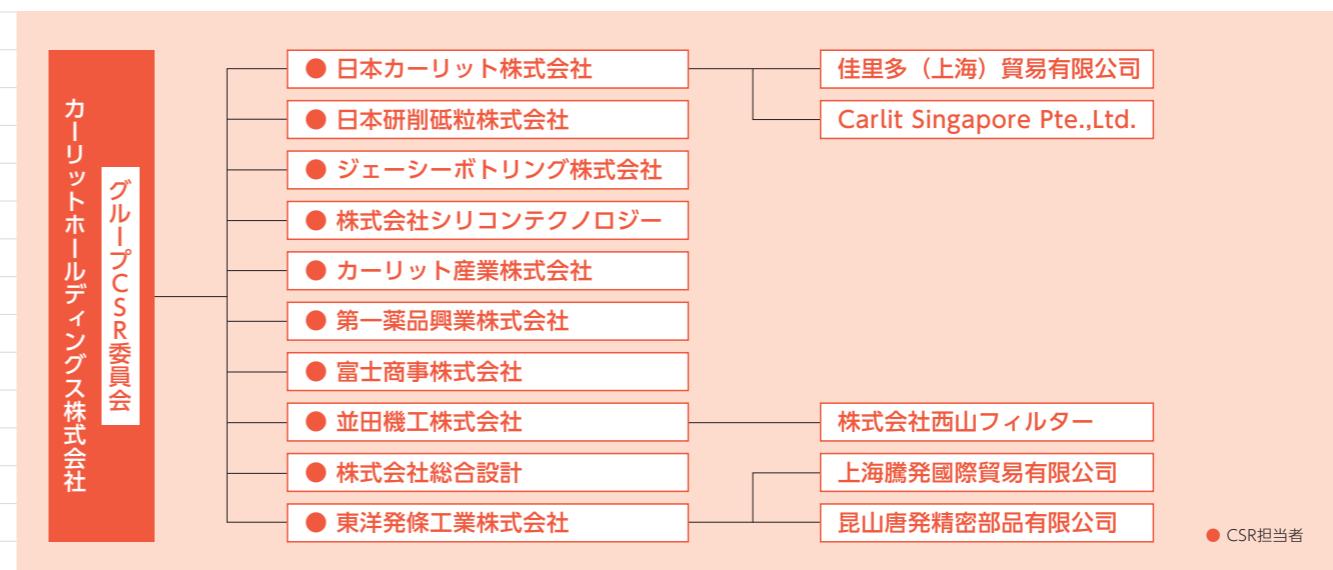
ステークホルダーとの関わり



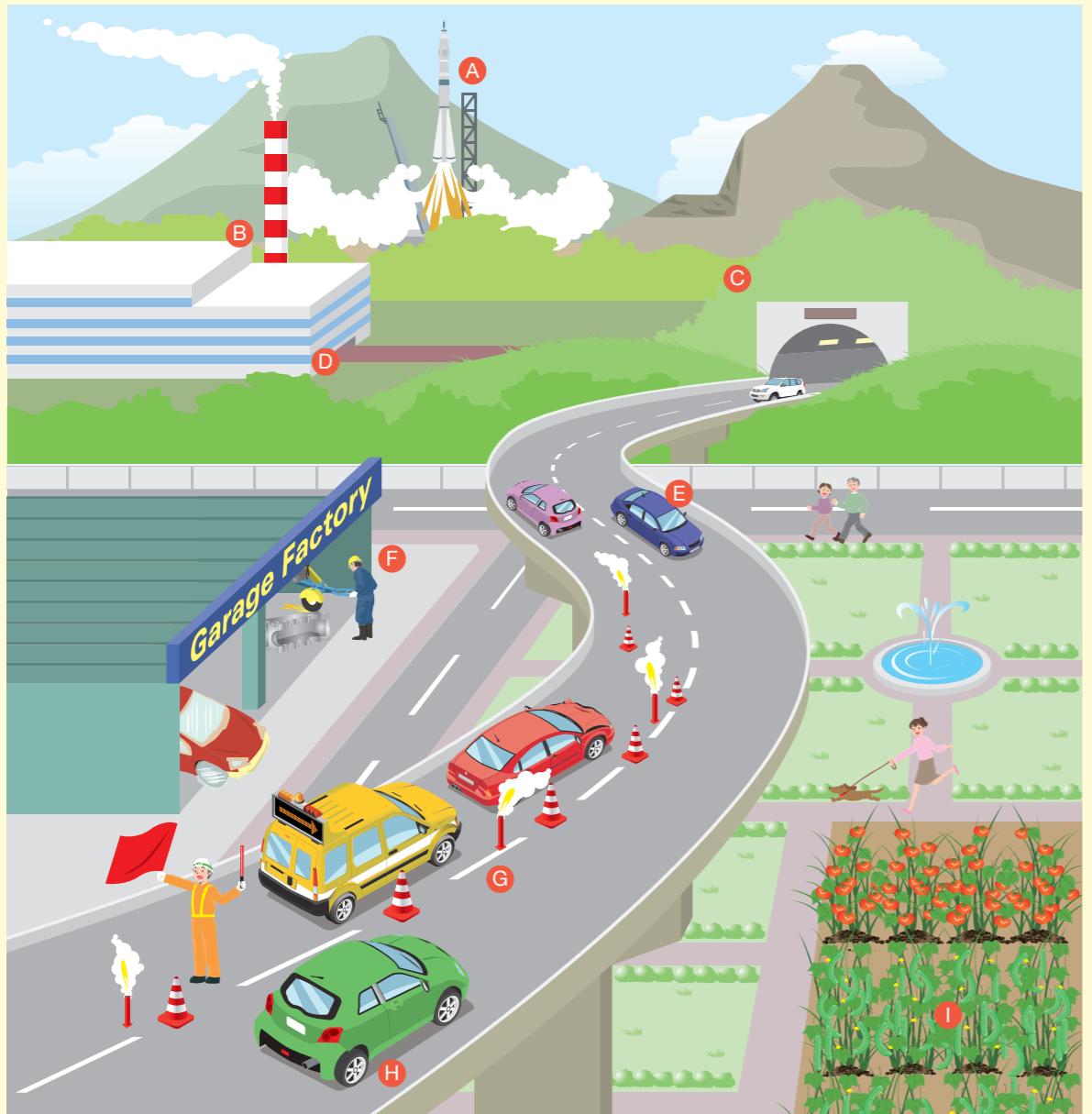
■ グループCSR委員会

当社グループでは、CSR活動を推進するための組織として「グループCSR委員会」を設立しました。グループCSR委員会では、グループ全体のCSR活動の取り組みや今後の方針、CSRレポートの内容等について審議を行います。委員会での決定や活動指針等は、CSR事務局を通じて各グループ会社に展開します。各グループ会社でCSR担当者を1名決め、各グループ会社でのCSR活動を普及していく役目を果たしています。

グループCSR体制図



カーリットグループの製品



A ロケット燃料

宇宙事業を担うロケットの固体推進薬原料となる「過塩素酸アンモニウム」は、国内で唯一当社が製造しています。

B 耐熱炉内用金物

石油化学関係諸設備やごみ焼却設備などの焼却炉等で、耐火物を保持・固定するための耐熱炉内用金物を製造しています。

C 産業用爆薬

トンネル掘削等の土木工事やセメント原料の石灰石の採取に使用される安全性の高い産業用爆薬の製造を行っています。

D 塗料・塗装工事

工業用、重防食用を中心とした各種塗料の販売、自社の塗装工場での塗装業務、お客様の工場内の製造工程での塗装業務など、様々な塗料・塗装のニーズにお応えしております。

E ばね・座金

自動車や建設機械等に使用されるスプリングやスプリングワッシャなどの金属加工事業を行っています。

F 研削材

自動車、鋼鉄、機械などの分野で活躍する研削砥石、研磨布紙、耐火材の原料として使用される研削材の製造・販売を行っています。

G 信号用火工品

自動車用緊急保安炎筒、高速道路用・鉄道車両用などの信号用火工品は、様々な場面で使用者の身の安全を守ります。

H 電池試験

電気自動車などに使用されるリチウムイオン二次電池等の蓄電池の充放電サイクル試験・性能試験の受託を行っています。

I 農業薬品

安全で強力な除草剤「デゾレート」をはじめ、うどんこ病などの治療・予防薬、天然成分を多く含んだ肥料など自然環境にやさしい製品を扱っています。

日常生活において、あなたの身の回りにあるものにカーリットグループの“技術”が活かされています。



J 漂白剤

製紙・繊維業界で漂白剤に使用される「塩素酸ナトリウム」や「亜塩素酸ナトリウム」の製造・販売を行っております。

K ペットボトル・缶飲料

現代の暮らしに必需品となっているペットボトルや缶の清涼飲料水の受託製造を行っています。

L 上下水道処理施設

上水・下水処理の巨大な水処理施設に代表される大規模複合構造物の構造設計を行っております。

M フィルター

近赤外線吸収色素CIRはプラズマテレビのフィルターなどに使用され、テレビリモコンの誤作動を防止します。

N シリコンウェーハ

AV機器、パソコン、携帯電話さらには自動車の電子機器類に欠かせないダイオードやトランジスタ、IC集積回路などの基本素材となる「シリコンウェーハ」を製造・販売しています。

O 保護フィルム

携帯電話のディスプレイなどに貼る保護フィルムに使用されるイオン導電性付与剤(CIL)は、静電気を除去し、ほこりの付着を防ぐ効果があります。

P 花火

「日本の伝統花火文化」を支援するため、火工品・花火製造者向けの火薬原料・工業薬品の販売を行っています。

モノづくりを通じたCSR

基本
方針

企業市民として、モノづくりを通じて社会的課題の解決に積極的に取り組み、人々の豊かな生活に貢献していきます。

特集 Special Feature 1 東洋発條工業(株)をグループ会社の一員に

2014年2月、東洋発條工業(株)の株式を取得し、同社がグループ会社の一員となりました。同社は、自動車および建設機械向けスプリングの製造を行っている会社です。今回は、同社の代表的な製品、「ワッシャ」と「板ばね」についてご紹介します。

ワッシャ

ワッシャとは、ネジやボルトを締め付ける際に、座面と締め付け部の間にに入る部品のことです。ワッシャを入れることで、ネジに対して通し穴が大きいときや軸力に対して座面が小さいときでも、確実に締め付けることができます。

ワッシャのなかでも、東洋発條工業(株)が主に製造しているのは、スプリングワッシャと呼ばれるものです。スプリングワッシャとは、平座金の一部を切断して切り口をねじった様なもので、緩み止めや緩んだ際の脱落防止に役立ちます。スプリングワッシャ以外にも、波形ばね座金（スパック）、平座金など、お客様の用途に合わせて幅広く提供しています。



板ばね

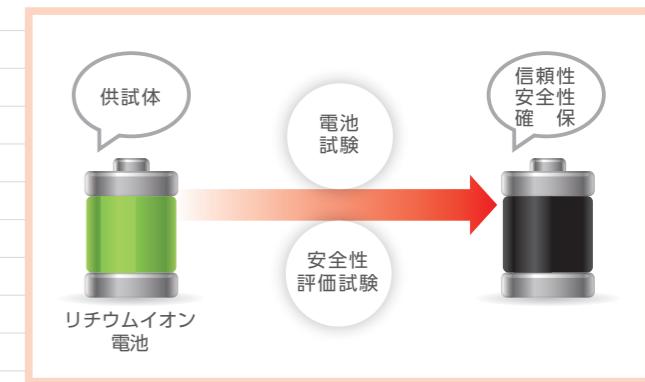
「ばね」と言うと、らせん状のばねを想像するかもしれません。しかし、東洋発條工業(株)では、用途に合わせた様々な種類のばねを製造しています。例えば、薄板ばね。薄板ばねは、フープ状の板材を抜き・絞り・曲げ加工型の組み合わされた金型によってプレス機にて打ち抜いた製品です。主力製品であるC型止め輪は、穴または軸に加工した溝にはめ込み、隣接する部品を固定する為に用いられ、主にペアリングなどの部品として利用されます。



特集 Special Feature 2 電池試験事業を開始

日本カーリット(株)では、2013年12月に電池試験所が竣工。電池試験事業を開始しました。電池試験では、電気自動車などの車載用の大型リチウムイオン電池や携帯電話などの小型リチウムイオン電池など、幅広い種類の電池の充放電試験を行います。充放電試験では、供試体のリチウムイオン電池を繰り返し充放電することで、電池の寿命や容量などの信頼性をチェックし、規格どおりの性能が備わっているかどうかを確認します。

また同社では、安全性評価試験と呼ばれる試験も行っています。供試体に着火・衝撃・圧力等を与え、供試体の安全性を確認します。電池試験と安全性評価試験を一貫して行うことで、電池の信頼性と安全性を確保します。

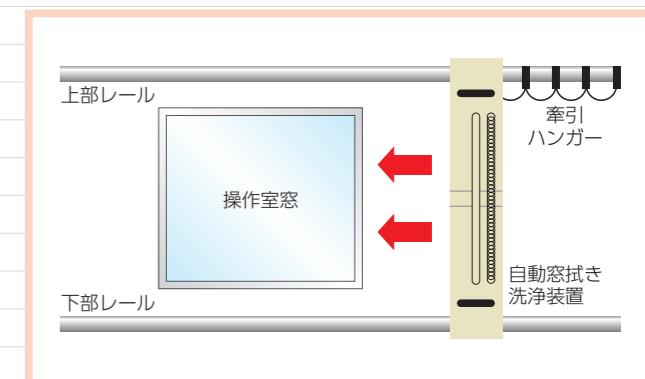


特集 Special Feature 3 新製品「自動窓拭き洗浄装置」

耐火・耐熱金物等を製造する並田機工(株)では、新たに「自動窓拭き洗浄装置」という製品の取り扱いを開始しました。

自動窓拭き洗浄装置は、高所にある清掃が難しい窓ガラスを全自動で洗浄し、ガラス面の視界を常にクリーンな状態に保持できる装置です。例えば、ゴミ焼却施設のクレーン操作室や見学室は高所にあり、さらにはこりや悪臭・安全上の理由から密閉構造となっています。自動窓拭き洗浄装置を使用することで、操作室内部から窓ガラスの自動洗浄が可能となります。

作業員を危険にさらすことなく、生産現場での安全なモノづくりに貢献しています。



環境保全

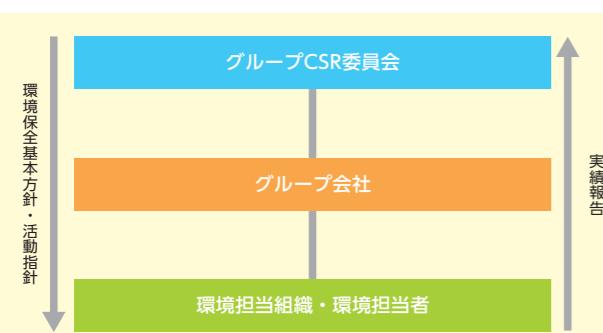
基本
方針

製品の開発から廃棄までの全てのライフサイクルにおいて自然環境を尊重し、環境負荷の少ないモノづくりを目指し、地球環境の保全と維持に配慮した事業活動を継続的に行います。

環境保全体制

カーリットグループでは、グループCSR委員会で策定したCSR基本方針の1つ、「環境保全」の活動指針に従い環境に対する取り組みを推進しています。各グループ会社は環境担当組織（部署・委員会など）や環境担当者を通じて、各社における環境保全活動に取り組んでいます。

また、環境パフォーマンスデータや環境負荷削減への取り組みについて、年間の実績をグループCSR委員会において報告します。



要チェック！

● 群馬ソーラー発電設備

国の施策として再生可能エネルギーの普及・拡大が進められていることを受け、当社グループは、ジェーシーボトリング(株)の製品倉庫の屋根上に「ソーラー発電設備」を設置しました。このソーラー発電設備は、年間で約1,062kwhの電力を生み出し、年間CO₂削減量は、約493tとなります。

倉庫の屋根上有効的に利用し、また屋根温度の上昇を抑制することで倉庫内温度の低減にもつながります。



認証取得状況

● ISO14001

会社名	認証取得日
日本カーリット(株)	2001年12月
ジェーシーボトリング(株)	日本カーリット(株)の一部門として取得
カーリットホールディングス(株) R&Dセンター	〃
カーリット産業(株) エンジニアリング部	〃
(株)シリコンテクノロジー	2004年10月
東洋発條工業(株)	2005年1月

● 広桃発電所

利根川流域にある自家水力発電所「広桃発電所」では、日本カーリット(株)の群馬工場に昼夜を問わず安定して電力を供給しています。広桃発電所で1年間に発電している電気量を購入電力で賄おうとした場合、年間に約7,500t以上のCO₂が排出されることになり、これは日本カーリット(株)全体の電気使用量の約3割に相当します。広桃発電所は1953年に完成し、60年以上もの間、温室効果ガスを排出しないクリーンエネルギーを工場に供給し、当社グループの省エネ活動に大きな貢献を果たしています。



2013年度マテリアルバランス（グループ計）

INPUT



エネルギー 25,511kJ

電力 79百万kWh
燃料 350千GJ



カーリットグループの事業活動

OUTPUT



製品



大気排出

CO₂ 51,622tCO₂
SOx 0.0t
NOx 3.8t
ばいじん 0.18t



排水

BOD 18.5t



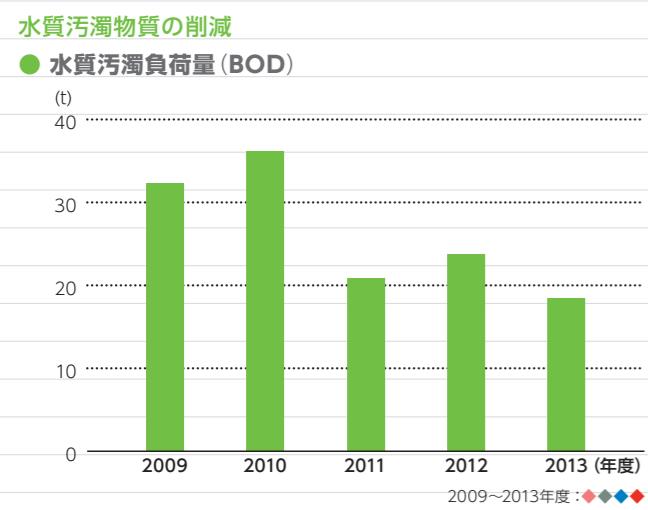
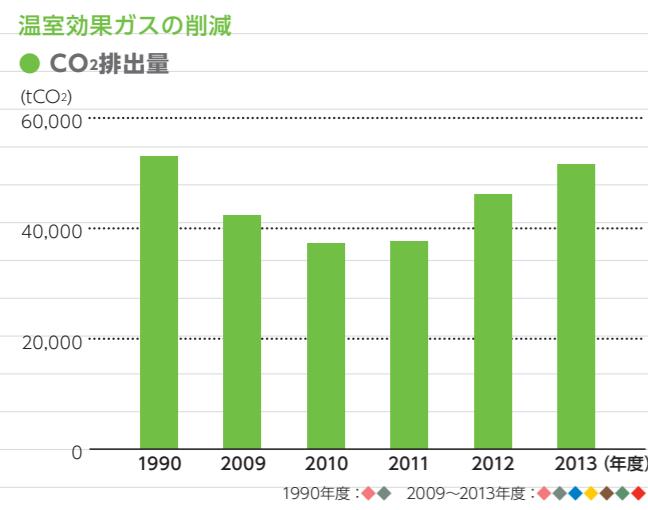
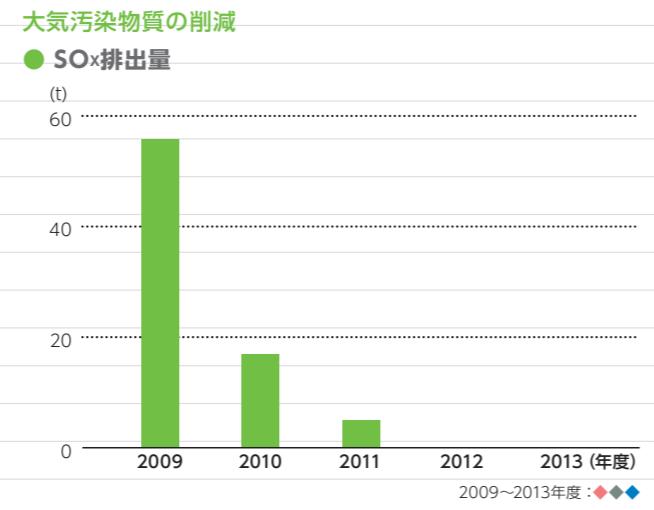
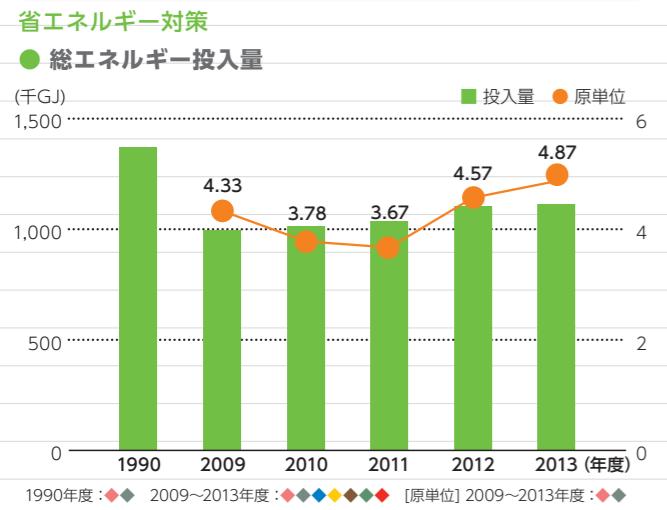
PRTR法対象物質 8.01t



外部リサイクル量 9,125t
最終埋立処分量 564t

(注)計算の都合上、一部対象範囲が異なるものも含まれています。環境パフォーマンスデータにそれぞれ対象範囲を記載しています。

環境パフォーマンスデータ (グループ計)



● PRTR対象物質の削減

(单位:t)

物質名称	政令 番号	移動量			廃棄物 移動量
		大気	水域	土壤	
アセトニトリル	13	0	0	0	7.80
スチレン	240	0	0	0	0.0
鉛化合物	305	0	0	0	0.0
ほう素化合物	405	0	0	0	0.2
合計					8.01

レスポンシブル・ケアへの取り組み

レスポンシブル・ケアとは？

化学産業は、化学物質を取り扱うそれぞれの企業が化学物質開発から製造、物流、使用、最終消費を経て廃棄・リサイクルに至る全ての過程において、安全で責任のある、持続可能な管理を行うことをコミットしています。その実行のために、“自らの行動を通じて「環境・安全・健康」を確保し、活動の成果を公表し、社会との対話・コミュニケーションを行う”ことをレスポンシブ・ケア活動といいます。

カーリットグループでは、化学メーカーである日本カーリット(株)レスポンシブル・ケアに取り組んでいます。

スポンシブル・ケア

よりよい環境・安全・健康へのコミット）の実施項目

レスポンシブル・ケア委員会は会員企業と共に、以下の5項目の実施を目指して活動を推進しています。

また、その成果を公表して「社会とのコミュニケーション」をめています。

環境保全

地球上の人々の健康と自然を守ります

保安防災

備災対策の防止や自然災害対策に努めます

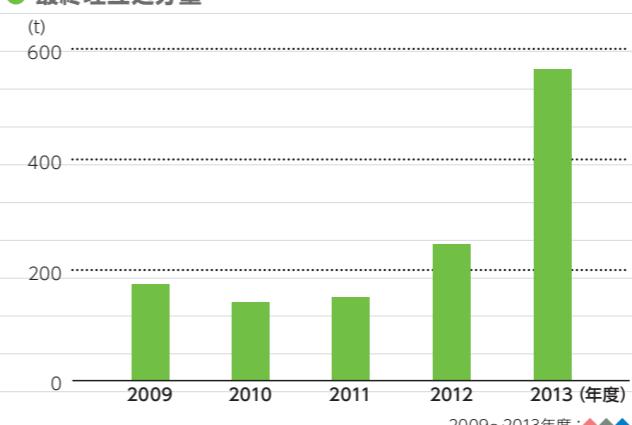
◎ 健康衛生

力圖女士南上

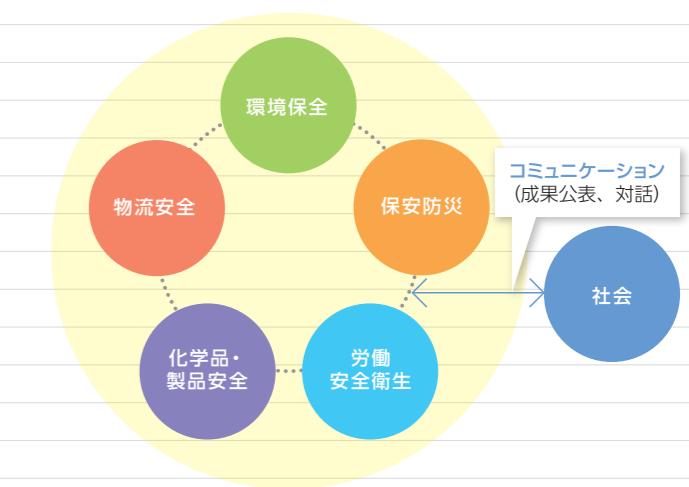
化学日 製日向介

学製品の性状と取扱方法を明確にし、

● 最終埋立処分量

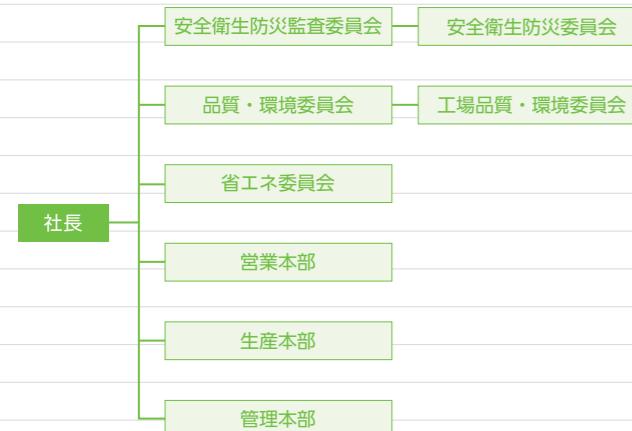


- ◆ 日本カーリット(株) ◆ カーリット産業(株) ◆ ジェーシーポトリング(株)
- ◆ (株)シリコンテクノロジー ◆ 日本研削砥粒(株) ◆ 並田機工(株) ◆ 東洋発條工業(株)



● レスponsible・ケア推進体制(日本カーリット(株)単体としての記載)

レスポンシブル・ケアを積極的に推進するため、日本カーリット(株)では下記の組織体制を構成しています。



■ 安全衛生防災監査委員会

各工場で、安全・衛生・防災活動を効率的に運営するために設置されている安全衛生防災委員会の活動の監査を行うとともに、監査委員会としても工場の安全巡視を実施し、安全等の確保を図っています。

■ 品質・環境委員会

本社を含む全社および群馬工場敷地内の子会社で構成され、半期毎に、製品安全・品質保証・輸出審査・環境影響の対応状況やISOマネジメントシステムの妥当性等の確認および情報共有を行っています。

■ 省エネ委員会

日本カーリット(株)は特定事業者として指定されているため(群馬工場は第一種エネルギー管理指定工場)、工場別だけではなく、全社として省エネ活動推進を行っています。

● レスponsible・ケア活動実績(日本カーリット(株)単体としての記載)

	2013年度目標	2013年度実績	評価	2014年度目標
環境保全	CO ₂ 排出量、 対1990年比5割減維持	対1990年度比52%減維持	○	CO ₂ 排出量、 対1990年比5割減維持
	環境負荷物質の年率1%削減	前年度並み	○	環境負荷物質の年率 1%削減
	PRTR法対象物質の削減	製造量が減少したため、 アセトニトリルは減少 ほう素およびその化合物は 製造量増加のため増加	△	PRTR法対象物質の削減
	廃棄物発生率の年率1%削減	前年度比 92.8%	△	廃棄物発生率の年率 1%削減
	リサイクル率の向上	リサイクル率13%に低下	△	リサイクル率の向上
	重大環境事故発生ゼロ	達成	○	重大環境事故発生ゼロ
保安防災	重大災害事故発生ゼロ	休業災害ゼロ	○	重大災害事故発生ゼロ
労働安全衛生	社員の心身ケアの対応強化	健康講演会および メンタルヘルスケア講習会を開催	○	社員の心身ケアの対応強化
化学品・製品安全	重大クレームゼロ	工場停止や製品回収等を伴う 重大クレームゼロ	○	重大クレームゼロ
物流安全	ステークホルダーへの 適正な情報公開の実施	[CSRレポート2013]の発行、 工場見学の受け入れ	○	ステークホルダーへの 適正な情報公開の実施

サイトレポート

日本カーリット(株)

代表取締役社長 富沢 满
住所 〒377-0004 群馬県渋川市半田2470(群馬工場)
従業員数 290人
敷地面積 177,555m²
生産品目 有機導電材料、光機能材料、イオン導電材料、
パルプ漂白剤、繊維漂白剤、固体推進薬原料、
二酸化塩素発生装置、電極

環境パフォーマンスデータ(2013年度)

エネルギー使用量	590 千GJ
CO ₂ 排出量	25,385 tCO ₂
水質汚濁負荷量(BOD)	18.5 t
SOx排出量	0.0 t
NOx排出量	0.0 t
廃棄物発生量	1,812 t
リサイクル量	228 t
最終埋立処分量	56 t

カーリット産業(株)

代表取締役社長 大川原 一男
住所 〒377-0004 群馬県渋川市半田2470
従業員数 20人
敷地面積 －(日本カーリット(株)の敷地内)
生産品目 農業用殺菌剤

環境パフォーマンスデータ(2013年度)

エネルギー使用量	千GJ
CO ₂ 排出量	tCO ₂
水質汚濁負荷量(BOD)	t
SOx排出量	全てのデータが
NOx排出量	日本カーリット(株)に含まれます。
廃棄物発生量	t
リサイクル量	t
最終埋立処分量	t

(株)シリコンテクノロジー

代表取締役社長 小西 正恭
住所 〒384-2204 長野県佐久市協和897-20(信濃工場)
従業員数 108人
敷地面積 12,654m²
生産品目 単結晶シリコンインゴット、
半導体用シリコンウェーハ

環境パフォーマンスデータ(2013年度)

エネルギー使用量	100 千GJ
CO ₂ 排出量	5,512 tCO ₂
水質汚濁負荷量(BOD)	—
SOx排出量	—
NOx排出量	—
廃棄物発生量	543 t
リサイクル量	77 t
最終埋立処分量	466 t

日本研削砥粒(株)

代表取締役社長 神谷 明秀
住所 〒522-0251 滋賀県犬上郡甲良町北落870(関西事業所)
従業員数 19人
敷地面積 18,313m²
生産品目 人造研削材、砥石、砥石関連商品、
プラスチック関連商品

環境パフォーマンスデータ(2013年度)

エネルギー使用量	1 千GJ
CO ₂ 排出量	123 tCO ₂
水質汚濁負荷量(BOD)	—
SOx排出量	—
NOx排出量	—
廃棄物発生量	42 t
リサイクル量	0 t
最終埋立処分量	42 t

品質保証

基本方針

お客様の信頼および満足のもとに決められた品質を実現するために、一人一人がこれに関与していることを認識し、各役割を理解し、積極的な品質向上活動を継続します。

ジェーシーボトリング(株)

代表取締役社長	木村 岳
住 所	〒377-0004 群馬県渋川市半田2470(渋川工場)
従 業 員 数	148人
敷 地 面 積	81,829m ²
生 産 品 目	清涼飲料水 (缶飲料、ペットボトル飲料)

● 環境パフォーマンスデータ(2013年度)

エネルギー使用量	397 千GJ
CO ₂ 排出量	18,851 tCO ₂
水質汚濁負荷量(BOD)	日本カーリット㈱に含む
SOx排出量	0.0 t
NOx排出量	3.8 t
廃棄物発生量	9,123 t
リサイクル量	8,806 t
最終埋立処分量	0 t

並田機工(株)

代表取締役会長	木村 昌利
住 所	〒551-0013 大阪市大正区小林西1-13-13(本社工場)
従 業 員 数	78人
敷 地 面 積	1,322m ²
生 産 品 目	アンカーメタル、リテナ、 自動窓拭き洗浄装置

● 環境パフォーマンスデータ(2013年度)

エネルギー使用量	7 千GJ
CO ₂ 排出量	343 tCO ₂
水質汚濁負荷量(BOD)	—
SOx排出量	—
NOx排出量	—
廃棄物発生量	—
リサイクル量	—
最終埋立処分量	—

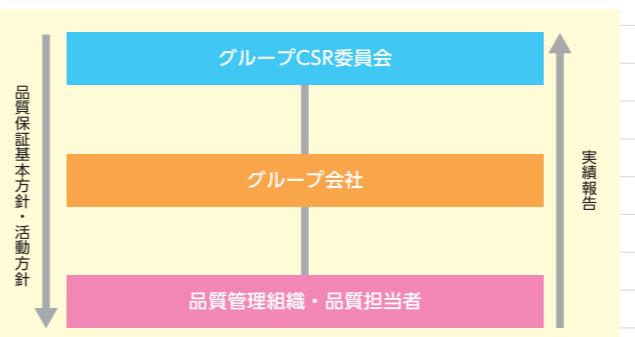
東洋発條工業(株)

代表取締役会長	原 民男
住 所	〒311-3434 茨城県小美玉市栗又四ヶ2576(石岡工場)
従 業 員 数	122人
敷 地 面 積	19,834m ²
生 産 品 目	ばね座金、高張力平座金、止め輪、 各種板バネ、線バネ、精密プレス部品

● 環境パフォーマンスデータ(2013年度)

エネルギー使用量	27 千GJ
CO ₂ 排出量	1,408 tCO ₂
水質汚濁負荷量(BOD)	0.0 t
SOx排出量	—
NOx排出量	—
廃棄物発生量	112 t
リサイクル量	14 t
最終埋立処分量	—

品質保証体制



認証取得状況

ISO9001

日本カーリット(株)
ジェーシーボトリング(株)
(株)シリコンテクノロジー
(株)総合設計
東洋発條工業(株)

HACCP

ジェーシーボトリング(株)

HACCP

食品安全性を担保する原料の入荷から製造・出荷までの全ての工程において、あらかじめ危害を予測し、その危害を防止するための重要管理点を特定して、そのポイントを継続的に監視・記録し、不良製品の出荷を未然に防ぐためのシステムです。

事例紹介 (株)シリコンテクノロジーの5S活動

2014年6月、(株)シリコンテクノロジー信濃工場において、今後の5S活動の再活性化を図るために活動の重要性および方針を社員全員に共通認識してもらうことを目的とし、経営トップによる「5S活動キックオフ宣言」から5S活動が開始されました。

5S活動の体系としては課長職の中から5S委員長を選出し課長主体で構成された5S推進委員会を中心とし、リーダーおよびメンバー(全社員)による全体活動となっています。

また毎月5Sに対するテーマを設けそれに向け日々改善を繰り返すことで、会社をキレイにする5S活動の中から企業風土の改革および自律型人材育成につなげる活動を実施しています。

さらに活動の活性化を目的として毎月委員会およびリーダーによる5Sパトロールの実施、並びに2ヵ月に1度の経営トップによる幹部パトロールを実施しています。

日々更なる向上を目指し全社での活発な5S活動を継続して実施しています。

5S活動方針とスローガン

● 活動方針

全社員の意識改革と業務の効率化により企業間競争を勝ち抜く

全社をキレイにすることだけを目的とするのではなく、5S活動を通じて、社内に「守ることを決め、決めたことを守る」風土作りの手段とし、1つ1つ結果を出しながら業務の効率化につなげていく。

● 活動スローガン

品質向上の第一歩は、整理・整頓・清掃

「品質向上」については、5Sの「躰」に位置するものであり、また「品質向上」とは各自の人格、人柄の改良、向上を意味する。

活動体系図



5S活動の再活性化

当社グループでは、現在5S活動の再活性化を図っています。5S活動を改めて徹底することにより、従業員の意識改革や事故・クレームの低減を図ってまいります。

● 5S活動とは？

5S活動は、「整理・整頓・清掃・清潔・躰」の頭文字Sのことを行います。

整理: 必要なものと不要なものを区分し、不要なものを捨てること

整頓: 必要なときにすぐ使えるよう、正しい置き方やレイアウトを決めるこ

清掃: ゴミ、汚れ、異物などをなくし、不具合を発見すること

清潔: 整理・整頓・清掃を繰り返し、衛生面・環境面を含めてきれいに維持すること

躰 : 決めたことが守れるように習慣づけすること

改善前



改善後



安全対策

基本方針

無事故、無災害を目指し、従業員と地域社会の安全を確保します。また、工程、物質においてリスクを洗出し、従業員、物流関係者、お客さま等関係する人々の安全を図ります。

提案制度

カーリットグループでは、多くのグループ会社で「提案制度」を導入し、現場で働く従業員からの声を職場に反映しています。

2013年度 提案件数
(グループ計)

1,968 件

提案制度

提案制度は、従業員が職場環境や作業効率の改善案を会社に提案し、会社側が提案内容を実現するとともに、提案内容の重要度に応じて提案者に一定の報酬を与える制度です。当社グループでは、提案制度を採用している会社ごとに運用方法は異なりますが、多くの会社で積極的に従業員が会社に提案しやすい環境を作り、工場の安全や品質保証などの改善に役立てられています。

ヒヤリ・ハット

ヒヤリ・ハットを報告する体制を各グループ会社で運用し、従業員の安全確保に努めています。

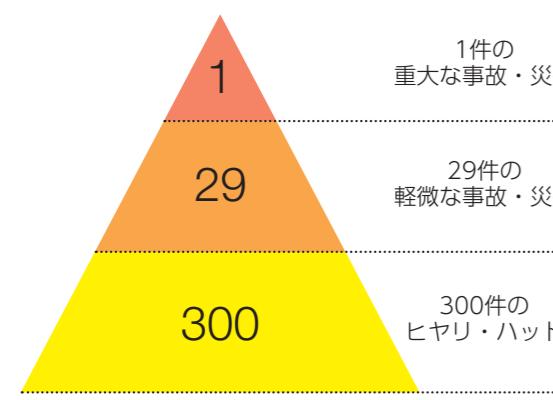
2013年度 ヒヤリ・ハット報告件数
(グループ計)

1,808 件

ヒヤリ・ハット

重大事故な事故につながらなかった軽微な事象のこと。重大な事故の発生の前には、多くのヒヤリ・ハットが潜んでいることが多く、ヒヤリ・ハットの事例を蓄積することで重大事故を防ぐことができます。

ハインリッヒの法則

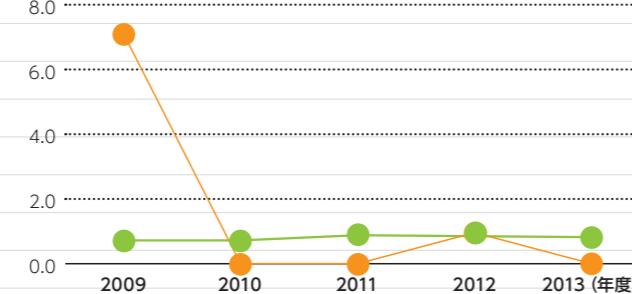


労働災害件数

休業災害	不休災害
0 件	9 件

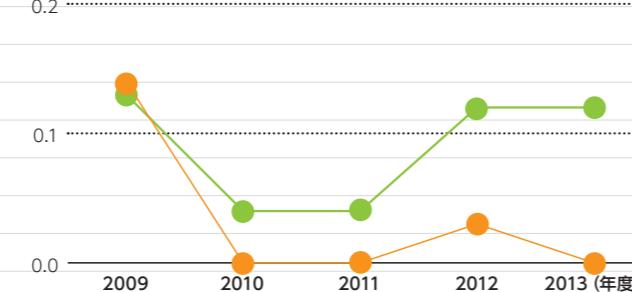
労働災害度数率

(%)



労働災害強度率

(%)



無災害記録

日本カーリット㈱ 群馬工場	2,646,500 時間
日本カーリット㈱ 赤城工場	1,577,700 時間
ジェーシーポトリング㈱ 渋川工場	609,824 時間
(株)シリコンテクノロジー 信濃工場	270,580 時間

防災訓練

日本カーリット㈱の群馬工場では、自衛消防隊と合同で防災訓練を実施しています。

2013年度は、2度の防災訓練を実施。そのうち、9月に行われた防災訓練では、製造工場の近くの火災を想定し、屋外消火栓による放水訓練を始め、対策本部の設置、緊急車輛の誘導、緊急工作隊の出動等の総合的な防災訓練を行いました。対策本部では、トランシーバーを使用した火災現場の状況把握や全体への指示などを行い、実際に火災が起きたとき従業員がどのように行動すればよいかのシミュレーションを行いました。



危険物燃焼実験

普段扱っている危険物の危険性を従業員に再認識してもらうために、日本カーリット㈱の群馬工場では、「危険物燃焼実験」を行っています。危険物燃焼実験では、「過塩素酸アンモニウム」や「塩素酸ナトリウム」の水溶液を浸した作業服と、通常の作業服の両方に火をつけ、どちらが早く燃え広がるか試験を行います。通常の作業服がゆっくりと燃え広がるのに対し、水溶液を染みませた作業着は一瞬で燃え広がりました。



物流安全講習会

レスポンシブル・ケア活動項目の1つである「物流安全の確保」の一環として、日本カーリット㈱群馬工場の業務グループが主催で、「物流安全講習会」を開催しました。講習会は、運送会社の方や運行管理者などが受講し、講習会のなかで、危険物や劇物に該当する製品の特性や緊急時の措置について講習を行いました。また、工場内での物流事故防止を目的とした工場内安全遵守事項や輸送クレームの撲滅を図るために、事故対策などにも議題を広げることで、品質管理の一層のレベルアップを図っています。



安全工学実験講座

特定非営利活動法人「安全工学会」の主催により、発火・爆発・分解などの事象を目で見て体験できる「安全工学実験講座」を開催しています。当講座は、安全に関する理解を深めることを目的としており、発火試験や引火爆発試験などを行いました。安全を考慮して少量の試料を用いての実験でしたが、大きな炎や爆音を伴い、実際に事故が起こった場合の恐ろしさを再認識しました。



従業員教育・福利厚生

基本
方針

人材を「人財」と捉え、従業員が働きやすい環境を整えるとともに、
従業員の育成に努めます。

教育制度

当社グループでは、新入社員から経営職までの職位に応じた研修を始め、様々な教育研修を実施しています。グループ横断的な教育制度を充実させることで、カーリットグループの未来を担う「人財」の育成に取り組んでまいります。

● 職位別研修

新入社員研修

カーリットグループの社員として第一歩を踏み出していくことを目的に社会人としての基礎や「モノづくり」に対する意識を学ぶ

入社2年目研修

2年目での更なる飛躍を目的に自分の課題と目標を明確化させる

中堅社員研修

カーリットグループを担う人財への成長を目的に今後のキャリアビジョンを描く

新任指導職研修

リーダーシップの発揮を目的に指導方法や部署の問題解決に関する手法を習得する

新任管理職研修

マネジメント力の習得を目的に管理職としての役割と立場を認識し、職場課題形成力を強化する

経営職研修

経営視点の獲得を目的に経営戦略構想力を強化する



● 研修事例

新入社員研修

カーリットグループの多くはメーカーです。各グループ会社に配属された新入社員の多くは、配属先の工場で製造実習を行い、モノづくりの基礎を学びます。日本カーリット(株)では、入社してから約2ヵ月間、群馬県渋川市の2工場を順番に回り、各製造現場で実際に作業を行います。化学メーカーである日本カーリット(株)の製品は、製品イメージが湧きづらいですが、実際に製造現場に入ることで製品の特性などをつかむことができます。



中堅社員研修

入社5年目から6年目のグループ全体の中堅社員を対象とした「中堅社員研修」を実施しました。当研修では、「今までの経験を振り返ると同時に、今後期待される役割を理解する」、「主体的な業務遂行に向け、問題解決手法を学ぶ」、「周囲へ働きかけるコミュニケーション力を高める」の3点を目標としました。参加者同士でグループを組み、「リッチピックチャー」という手法でお互いに自己紹介し、効果的なコミュニケーションの方法などを習得しました。



中間管理職リーダーシップ研修

カーリットグループ全体の中間管理職を対象に、「リーダーシップとは何か?」をテーマにした研修を実施しました。優れたリーダーとしての資質を身につけるために、再度自己を見つめ直し、新たなステージに向かって行動すべきことを学びました。参加者同士でグループワークを実施。また、参加者同士でグループワークを実施し、グループ会社ごとに「ビジネスキャンパス」を描いて、会社の今後の展開について討議を行いました。



法務・コンプライアンス研修

カーリットグループ各社、各部門のコンプライアンス推進責任者を対象に、「法務・コンプライアンス研修」を実施しました。カーリットグループは、グローバルに事業を展開しており、海外の法令(独占禁止法、外国公務員贈賄規制等)についても留意が必要です。業務を遂行するにあたり、法令のみならず、社内規程に加え、社会常識や企業倫理に則って行動することの重要性について認識を新たにしました。



その他グループ各社での 教育・研修

- メンタルヘルスケアセミナーへの参加
(ジェーシーポトリング(株))

- 通信教育制度(日本カーリット(株))
- 建築基準改正時の社外講習(株総合設計)など

カーリットグループの人々

5S活動推進に向けて

私の主な業務は、検査や品質管理などの仕組み(システム)づくり、体制づくりまで含めた品質保証となります。2014年6月より「5S推進委員長」に任命され、ショールームの様なキレイに見せられる工場を基本に、5Sツールを駆使し老若男女問わず「ルールを決め、決めたことを守る」企業風土作りへの意識改革から、社員一人一人が考え方行動に移せる集団作りを目指し、コスト削減、品質安定などに貢献するべく日々奮闘しております。



株シリコンテクノロジー
品質保証部
品質保証課兼検査課長
太田 圭二

IR・広報活動

私は、持株会社の広報部に所属しています。投資家およびマスコミの方々に向けた決算説明会や個別訪問といったIR活動を担当しており、グループ全社のあらゆる情報を自作の資料等を用いて説明します。他にも広報活動として会社案内の作成、広告宣伝活動、工場見学会の企画等にも携わっています。広報部は立ち上がって間もない部署ということもあります、色々と戸惑うことが多いですが、当社の認知度向上のため日々の業務に注力しています。



カーリットホールディングス(株)
広報部
吉田 隼一

機能材料品の営業

私の業務は「PEL」や「CIL」といった機能材料品の営業を担当しています。当社で製造している「PEL」や「CIL」は導電性付与剤と呼ばれ、プリンタートナーや携帯電話ディスプレイの保護フィルムに使用されています。これらは静電気を除去する効果があり、「電気の通らないプラスチックに電気を流す」ことが可能となります。



日本カーリット(株)
電子材料部
機能材料グループ
大滝 公太郎

私の扱っている製品は、人々が日常的に使っているモノの中で密に活躍している製品です。人々の生活が今よりももっと豊かになることを夢見て、日々営業活動に励んでおります。

電極の研究開発

エクセロード電極の開発を担当しています。エクセロード電極は、日本カーリット(株)の製品で、パルプ漂白剤やロケット燃料の製造などに利用されています。電気化学工業を支え、化学反応剤を使用しないグリーンケミストリーの一翼を担っています。



カーリットホールディングス(株)
R&Dセンター
内海 友美

地域貢献

基本
方針

地域社会の一員として、地域に密着した社会貢献を行います。

群馬大学工場見学

2013年9月、群馬大学の学生24名が日本カーリット(株)群馬工場の見学に訪れました。工場見学では会社概要や環境貢献活動の説明をした後に、実際に製造現場の見学をしました。また、R&Dセンターも見学し、研究している製品の説明や実際に研究風景を見学してもらいました。

化学工場のなかを見学するという機会はあまり多くはないためか、学生の皆さんは積極的にメモをとったり、質問をしたりするなど興味津々の様子で、工場を見学していました。



愛の献血

2013年11月、群馬県赤十字血液センターより献血車が来場し、日本カーリット(株)の群馬工場の従業員、計16名が献血に協力をしました。この献血活動は同工場で毎年実施しているもので、地域貢献のための身近なボランティアとして積極的に協力をしています。

化学工場のなかを見学するという機会はあまり多くはないためか、学生の皆さんは積極的にメモをとったり、質問をしたりするなど興味津々の様子で、工場を見学していました。



トーハツ会 工場見学

東洋発條工業(株)の代理店「トーハツ会」の工場見学を2014年6月に実施しました。まず最初に、カーリットグループの概要や会社案内、商品ラインアップ、製造工程等を説明し、その後、実際に工場のなかに入って工場を見学しました。見学のなかで、精密プレス工場、板バネ工場、スペックワッシャ工場、熱処理・表面処理工場を見学し、代理店「トーハツ会」の方々に同社の事業内容を理解してもらう良い機会となりました。



土浦全国競技花火大会協賛

花火材料を取り扱う第一薬品興業(株)では、例年「土浦全国競技花火大会」に協賛しています。土浦全国競技花火大会は、大正14年に霞ヶ浦湖畔で行われたことが始まりで、2013年には82回目の開催を迎えた、伝統ある花火大会です。当社グループの第一薬品興業(株)は、花火大会に参加している花火メーカー様に原料を販売しており、日本の伝統文化の継承に貢献しています。



渋川市総合公園清掃活動

2014年5月、新入社員研修の一環として、渋川市総合公園と日本カーリット(株)群馬工場周辺の清掃活動を行いました。一見、清掃をする必要が無いように見える場所でも、落ち葉を掃除してみると中からタバコの吸殻など細かいゴミが出てきたり、側溝を覗けば空き缶が落ちていたりと、普段見逃してしまうところにも目を向けたやりがいのある清掃活動となりました。また、清掃活動中にすれ違う地域の方へ積極的に挨拶することで、新入社員が社会人として地域に貢献することの大切さを実感できました。



大阪市クリーンアップ作戦

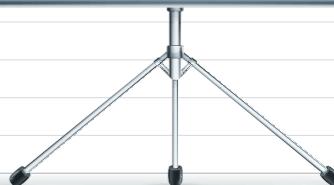
大阪市に本社工場がある並田機工(株)では、大阪市西部環境事業センター主催の清掃活動に参加しました。清掃活動では、同社をはじめ近隣の工場で働いている方が清掃に参加し、同社からは従業員約20名が参加しました。従業員で手分けして工場の周辺を清掃し街の美化に貢献するとともに、近隣工場の人たちや地域住民の方とコミュニケーションを図る良いきっかけになりました。



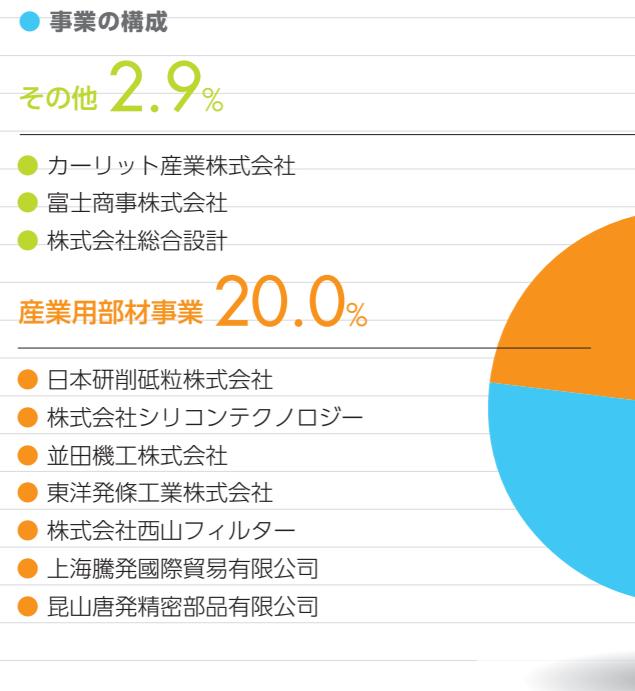
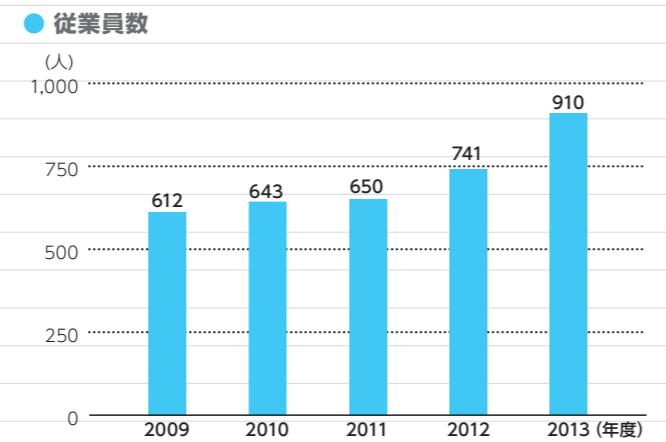
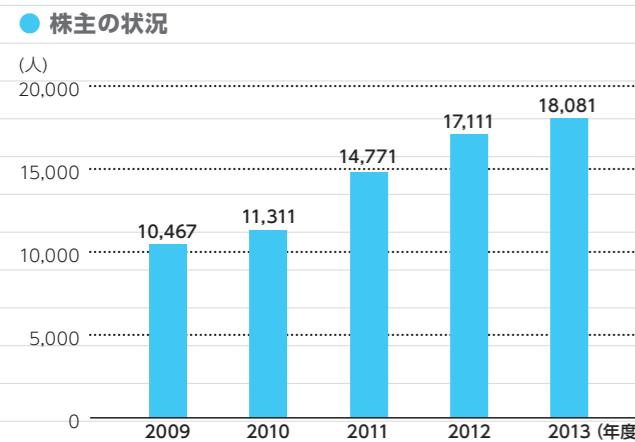
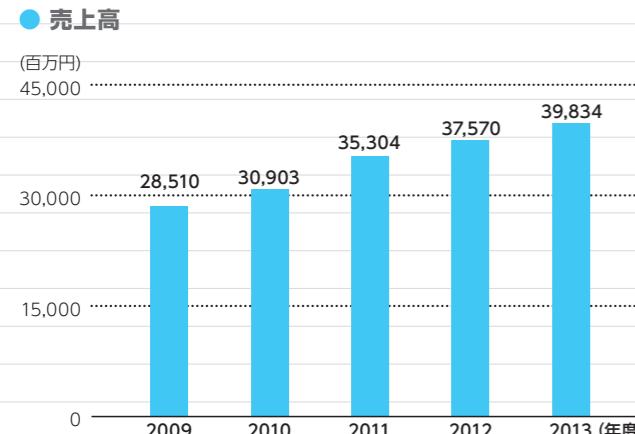
その他の地域貢献活動

- 工場近隣の清掃活動
(ジェーシーボトリング(株))
- 犬上川クリーン作戦
(日本研削砥粒(株))
- 近隣自治会の工場見学
(ジェーシーボトリング(株))
- 子ども工場見学会
(東洋発條工業(株))
- 前橋・渋川シティマラソンボランティア
(日本カーリット(株))
- 渋川市立図書館へのDVD寄付
(日本カーリット(株))

カーリットグループでは、コミュニケーションの一環として、地域の皆さまからのご意見、ご要望を受け付けています。今後も、地域に開かれた工場を目指し、皆さまからの声を活かしてまいります。



財務情報



第三者意見

カーリットホールディングス「CSRレポート2014」を読んで

Profile 川村 雅彦 (株)ニッセイ基礎研究所 上席研究員

九州大学大学院工学研究科修士課程修了、1976年 三井海洋開発(株)入社、1988年 (株)ニッセイ基礎研究所入社
専門分野：環境経営、CSR経営、統合報告など
現在 ● サステナビリティ・コミュニケーション・ネットワーク (NSC) 幹事
● 認定NPO法人 環境経営学会 副会長 ● 駒澤大学、成蹊大学、法政大学大学院非常勤講師 他
著書 『カーボン・ディスクロージャー』(編著)、『統合報告書による情報開示の新潮流』(共著)、
『本来のCSR経営』(単著:近刊) 他多数



過去の事故も踏まえたリスクマネジメントとして、「グループBCP」策定は評価できる。今後の内部浸透に期待したい。

CSRの報告について：

RC報告書から脱皮しつつCSR報告書へと進化

カーリットグループの非財務報告は、2009年度のレスポンシブル・ケア (RC) 中心の「環境報告書」から、2011・2012年度の「環境・社会報告書」を経て、さらに持株会社体制へ移行した2013年度からは「CSRレポート」へと、着実に進化している。まずは、このことを高く評価したい。

CSR報告書として2年目となった今年度の報告書は、ホールディングス内に創設された「グループCSR委員会」が策定したCSR活動の「8つの基本方針」に従った全体構成となっており、読者に何を伝えようとしているのか分かりやすい。また、グループ全体としてCSRに取り組もうとする積極的な姿勢も伝わってくる。これらのこととは、トップ・メッセージからもうかがえる。

しかしながら、CSR報告書としての全体構成の改善に向けて、2点指摘しておきたい。

一つは、「CSR推進体制」と「レスポンシブル・ケア推進体制」が並立しており、両者の関係が分かりにくいことである。よく読めば、前者はホールディングスとしてグループ全体のCSR推進体制、後者は化学メーカーとして主要な事業会社である日本カーリット(株)のRC推進体制であることが理解できる。10年来の実績のあるRC(環境・安全・健康)を踏まえつつも、取組領域をCSRに拡大したことから、その関係を説明すべきである。つまり、RCは化学企業として必要条件であり、CSRは業種不問の十分条件である。

もう一つは、上記とも関連するが、全体の報告内容(量と質)のバランスが取れていないことである。RCの考え方や実績は定量的で紙面も多く充実している。これに対して、CSRにおける顧客・調達先・従業員・地域などの「社会的側面」については取り組みの定性的な説明が多く、それらの進捗状況も曖昧である。社会的側面の取組は始まったばかりではあるが、今後、中長期の目標設定を検討すべきであろう。

CSR報告書とは、本来、CSR活動のP・D・C・Aを報告するものである。環境・社会・統治についてトップ・コミットメントに基づき目標と計画を定め、その実践結果や課題を開示すべきである。本報告書は、まだPからDを中心とした段階にとどまっている。「グループCSR基本方針」により方向性が明確になったが、各担当部署の改善に向けた具体的な課題は不明である。なお、

CSRの内容について：

カーリットグループの「CSR元年」となった2014年

2013年のカーリットホールディングスの設立に伴い、グループ全体のCSRを統括するために、「グループCSR委員会」が2014年に新たに発足した。そして、CSR活動を8つの方針に整理し、基本的な方向性が明確にされた。これにより、2014年はカーリットグループの「CSR元年」となったのである。

それでは、カーリットグループのCSRとは何か。それは「8つの基本方針」の筆頭にあげられ、トップ・メッセージでも語られているように、『モノづくりを通じたCSR』である。具体的には、本業を通じて「社会の課題」を解決すること。つまり、社会のニーズをいち早く察知し、必要とされる製品・サービスを提供することである。これは自社の強みを活かしたビジネス戦略として当然であり、大いに期待したい。

一方、10年に及ぶ議論の末に2010年に発行され、CSRのグローバル・スタンダードとなった国際規格ISO26000は、CSRを「企業の意思決定と事業活動が環境や社会に及ぼす影響に対して責任を果たすこと」と定義した。つまり、CSRとは本業(プロセスとプロダクト)において、自社自身の抱える社会的課題(特に人権・雇用・労働や環境、業務慣行)を解決することである。これを、私は「本来のCSR」と呼んでいる。

この「本来のCSR」と対比されるのが、2011年に米国ハーバード大学のマイケル・ポーター教授が提唱した「CSV(共有価値の創造)」である。いずれも、社会的課題の解決がキーワードであるが、本質的に異なる概念である。カーリットグループのCSRは、CSVに近い印象がある。誤解なきよう申し上げるが、両者はリスクとチャンスの構図として“車の両輪”である。

近年の加速するグローバル化の中、日本企業が当地の社会的課題を認識しないまま海外進出することから、トラブルを抱え込むケースが増えている。カーリットグループの今後の海外展開を視野に入れるに、ISO26000をモノサシとしてCSRの再構築を検討されることをお勧めする。これは“CSR第一期”的課題として、2018年の創業100周年に向けたCSRの一つの到達点となろう。



お問い合わせ先

カーリットホールディングス株式会社 広報部

〒104-0031 東京都中央区京橋一丁目17番10号

住友商事京橋ビル7階

TEL 03-6893-7070 FAX 03-6893-7050

<http://www.carlithd.co.jp/>

UD FONT

見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

